



TITLE:

## 陰茎転移をきたした腎癌の1例

AUTHOR(S):

高橋, 久弥; 平野, 恭弘; 石川, 晃; 牛山, 知己; 鈴木, 和雄; 藤田, 公生

---

CITATION:

高橋, 久弥 ...[et al]. 陰茎転移をきたした腎癌の1例. 泌尿器科紀要 2000, 46(7): 463-465

ISSUE DATE:

2000-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114323>

RIGHT:

## 陰茎転移をきたした腎癌の1例

浜松医科大学泌尿器科学教室 (主任: 藤田公生教授)

高橋 久弥, 平野 恭弘, 石川 晃

牛山 知己, 鈴木 和雄, 藤田 公生

PENILE METASTASIS FROM RENAL CELL CARCINOMA:  
A CASE REPORT

Hisaya TAKAHASHI, Yasuhiro HIRANO, Akira ISHIKAWA,

Tomomi USHIYAMA, Kazuo SUZUKI and Kimio FUJITA

From the Department of Urology, Hamamatsu University School of Medicine

Penile metastasis is rare. It occurs in the advanced stage of genitourinary cancer, with many other metastases in various organs. All 7 patients with penile metastasis of renal cell cancer, reported in the Japanese literature, died within a year. Our case was not the exception. A 69-year-old male presented with right flank pain and penile induration. Right renal cancer with liver invasion and multiple pulmonary metastases were found. Microscopic examination revealed a sarcomatous pattern. He died 4 months later.

(Acta Urol. Jpn. 46: 463-465, 2000)

**Key words:** Renal cell carcinoma, Penile metastasis.

## 症 例

患者: 69歳, 男性

主訴: 右側腹部痛

既往歴 家族歴: 特記すべきことなし

現病歴: 1996年頃より全身倦怠感出現. 1997年9月に全身倦怠感の増悪と陰茎の硬結を自覚した. 同年11月に強い右側腹部痛が出現し, 近医受診したところエコー上右腎の腫瘍を指摘され, 11月19日当科に紹介入院となった.

入院時現症: 入院時全身状態は良好で, 腹部に異常腫瘍を触知せず. 右鼠径部リンパ節の腫脹と陰茎の両側面の数珠状の硬結を触知した.

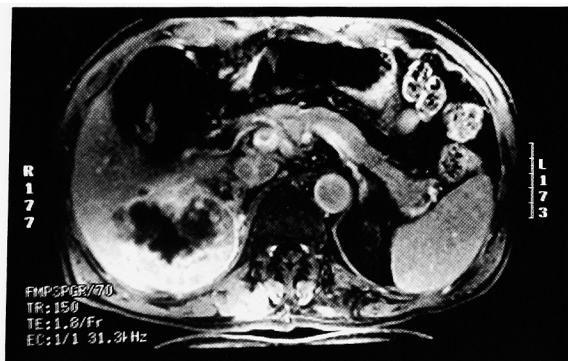
入院時検査所見: CRP 9.5 mg/dl, IAP 945  $\mu$ g/ml

Fig. 1. MRI (T1-weighted image) showed the right renal tumor's invasion to the liver.

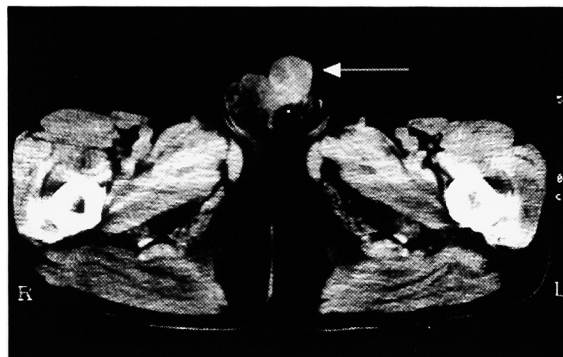


Fig. 2. CT showed the subcutaneous mass of the penis (arrow).

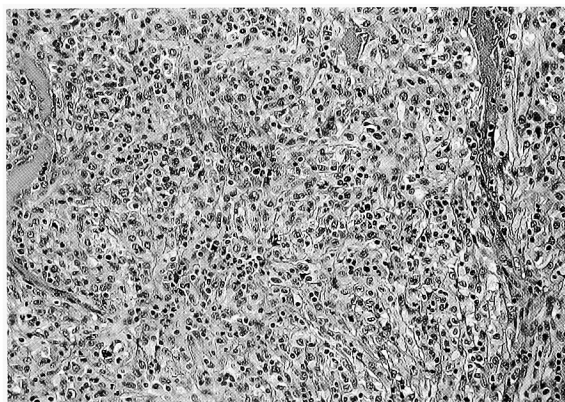


Fig. 3. Pathological examination of the right inguinal lymph node showed spindle cell carcinoma, sarcomatous pattern (H & E, original magnification  $\times 100$ ).

Table 1. 本邦における腎癌の陰茎転移症例

報告者	報告年	年齢	患側	組織型	初診時陰茎所見	治療	診断後の転帰
斉藤	1934	57	左	不明	持続勃起症	放射線照射	1 M後死亡
阿部	1963	42	右	不明	陰茎腫瘍	不明	死亡
小松原	1971	65	左	RCC	陰茎腫瘍	内科的治療	3 M後死亡
石戸	1980	75	右	RCC	持続勃起症	内科的治療	2 M後死亡
大藪	1981	63	左	RCC	陰茎硬結	左腎摘, 化学療法, 陰茎切断術	12M後死亡
寛	1984	42	右	RCC	持続勃起症	施行せず	1 M後死亡
中島	1997	52	左	ペリニ管癌	陰茎腫瘍	左腎摘	4 M後死亡
自験例	1998	69	右	RCC	陰茎腫瘍	右腎塞栓術, INF 療法, 化学療法	3 M後死亡

(<500  $\mu$ g/ml), 尿潜血 (+) その他血算, 生化学に異常を認めなかった. MRI 上右腎に内部不均一で石灰化を伴う 10×7.5 cm の腫瘍像を認め, 肝への浸潤が考えられた (Fig. 1). また CT にて両肺野に転移と考えられる腫瘍を, 陰茎の皮下組織には造影にて enhance される腫瘍を認めた (Fig. 2).

入院後経過: 入院後右鼠径部と陰茎の腫瘍に対し生検を施行. 病理組織学的診断は両部位とも紡錘細胞癌, 肉腫様変化であった (Fig. 3). さらに免疫染色の結果は Cytokeratin 陽性, Vimentin 陽性であった. IAP 高値, 画像所見, 免疫染色の結果などから腎細胞癌の多臓器転移と診断した. 12月2日にスポンゼルとエタノールによる右腎動脈塞栓術を施行した. その後インターフェロン  $\alpha \cdot \gamma$  併用療法を2週間施行したが, 不整脈の頻発と全身状態の悪化のため中止した. この間にも肺, 鼠径部の転移巣は増加・増大を続け, IAP はわずかに減少したのみであった. 陰茎は腫瘍により全体が腫脹・硬化しており, 軽い鈍痛と腫脹感を訴えるようになった. その後も状態は悪化を続け1月29日に死亡した. 剖検により両肺にそれぞれ10数個の転移巣, 傍大動脈リンパ節転移, 腹腔内播種を認めた. 転移巣はすべて紡錘細胞癌, 肉腫様変化の像を呈していたが, 右腎の腫瘍は塞栓術によりすべて壊死組織となっており, 腫瘍細胞は発見できなかった. 死因は癌性悪液質と考えられた.

## 考 察

陰茎は血流が豊富な臓器にもかかわらず, 悪性腫瘍の陰茎転移は比較的稀である. 1997年の檀野らの報告によると泌尿生殖器系からの転移が7割を占め, 特に膀胱からの転移が最多であった<sup>1)</sup> Table 1 に本邦における腎癌の陰茎転移症例を示す. われわれが調べ得たかぎりでは自験例を含め8例が報告されており<sup>2-8)</sup>, すべての症例が陰茎転移を診断されてから1年以内に死亡している. 1997年 Mark ら<sup>9)</sup>は欧米における腎癌の陰茎転移の26例目の報告を行っているが, それらの予後は本邦と同様である. 他の臓器からの転移症例を加えてもほとんどの症例は1年以内, 特に6カ月以内に死亡している. 文献上の最長生存は胃癌症例の35カ

Table 2. 悪性腫瘍の陰茎への転移経路

1. Direct extension
2. Implantation
3. Instrumental spread
4. Dissemination through blood stream
  - a. Direct arterial dissemination from primary or secondary neoplasms
  - b. Retrograde venous transplant
  - c. Secondary/Tertiary/Paradoxical embolism
  - d. Combined lymphatic and vascular dissemination via thoracic duct
5. Lymphatic permeation
  - a. Direct lymphatic spread
  - b. Retrograde lymphatic transport

Abeshouse BS and Abeshouse GA: J Urol **86**: 99-112, 1961から引用.

月であった<sup>10)</sup> 1984年に大藪らは陰茎転移巣に対して, 外科的に切除した方が短期的には予後がいいという報告をしているが<sup>6)</sup>, 一般に陰茎への単発転移例と疼痛除去目的などをのぞき予後改善には効果がないと考えられている. これはほとんどの場合, 腎癌の陰茎転移は重要臓器を含む多臓器転移の1症状にすぎないためである. 1990年の馬場らの報告によると転移性陰茎腫瘍の臨床症状として持続勃起症が4割以上に発症している<sup>12)</sup> Table 2 に Abeshouse らの提言した悪性腫瘍の陰茎への転移経路を示す. 本邦報告例では差は認めなかったが, Abeshouse の報告では腎癌が陰茎への転移の12症例中9症例が左腎からの転移と有意に多いとしている. これは左腎静脈に流入する左精巣静脈が腫瘍塞栓による逆流により骨盤内静脈叢と交通を形成するためであるとしている<sup>13)</sup> 確定はできなかったが本症例は骨盤内リンパ節への転移を認めなかったため逆行性リンパ性転移ではなく, 血行性転移によるものであると考えられた.

## 結 語

本邦8例目の報告と考えられる陰茎に転移を生じた腎癌の1例を経験したので報告した. 悪性腫瘍の陰茎転移はほとんどが重要臓器を含む多臓器転移の1症状であり予後はきわめて不良と考えられた.

本論文の要旨は第201回日本泌尿器科学会東海地方会で発表した。

## 文 献

- 1) 檀野祥三, 大原 孝, 松田公志, ほか: 肺癌および膀胱癌を原発とする転移性陰茎腫瘍の2例. 泌尿紀要 **43**: 61-63, 1997
- 2) 斉藤弘徳: 各種臓器に転移をきたした陰茎硬結を伴なへる腎臓癌腫の1例. 日泌尿会誌 **23**: 789-790, 1934
- 3) 阿部礼男, 高野 崇, 平田輝夫: 腫瘍性持続勃起症. ガン新病誌 **2**: 74-78, 1962
- 4) 小松原秀一: 陰茎転移により発見された潜在性腎癌の1症例. 日泌尿会誌 **63**: 154, 1972
- 5) 石戸則孝, 松浦陽右, 大森弘之, ほか: Malignant priapism の3例. 西日泌尿 **42**: 629-633, 1980
- 6) 大藪祐司, 吉武信行, 江藤耕作: 孤立性陰茎転移によって発見された腎細胞癌の1例. 西日泌尿 **46**: 1387-1394, 1984
- 7) 算 善行, 片村永樹, 吉田 修, ほか: 転移性陰茎腫瘍の3例. 泌尿紀要 **30**: 363-369, 1984
- 8) 中島耕一: 陰茎転移により発見されたペリニ管癌の1例. 泌尿器外科 **10**: 1324, 1997
- 9) Fallick MC, Long JP and Ucci A: Metachronous renal cell carcinoma metastases to spermatic cord and penis. Scand J Urol Nephrol **31**: 1997
- 10) 上野 精, 藤間弘行: 胃癌の陰茎, 副睾丸転移の1例. 臨泌 **28**: 449-453, 1974
- 11) 馬場克幸, 井上武夫, 品川俊人, ほか: 下咽頭を原発とした転移性陰茎腫瘍の1例. 泌尿紀要 **36**: 1467-1470, 1990
- 12) Abeshouse BS and Abeshouse GA: Metastatic tumor of the penis: a review of the literature and a report of two cases. J Urol **86**: 99-112, 1961

(Received on October 18, 1999)  
(Accepted on April 16, 2000)